K's NEWS
KANSAI HOKURIKU BLOCK in AREA ×3

印刷して学生みなさんでお読みください！

全国大学生協連
関西北陸ブロック
執筆者：和田明日香
協力：京都大学生協
発行日：2024年01月15日
第296号

京都大学生協
理事会での取り組み

[組織運営]

取り組み概要

日時：毎月1回開催
場所：吉田南生協会館2階本部会議室＋オンライン（zoom）のハイブリッド開催

概要：京都大学生協で毎月1回行われている理事会。全ての月において、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッドにて開催されている。

学生も、教職員も、同じ温度感で理事会に臨む

POINT.1 ハイブリッド開催だからこそ、お互いの顔が見える工夫

京都大学生協の理事会は、対面とオンライン（zoom）を併せたハイブリッド開催です。対面で話している人に自然とカメラが向くよう設定されており、オンライン参加者にも、誰が話しているかがわかるように配慮がなされています。これは、コロナ禍（2021年度）以降に取り入れた「オウル（owl）」というシステムによるものです。ハイブリット開催の場合、オンライン参加者が引き離されがちですが、対面参加者とオンライン参加者が、同じ温度感で理事会に挑めるようになっていました。なお、「オウル（owl）」は、理事会以外にも、新学期アドバイザー募集説明会（K'sNEWS第254号）などで活用されています。

POINT.2 学生の発言はほぼ毎回！

京都大学生協の特徴は、毎回の理事会で、学生理事による発言がなされていること。議長を学生が務めるほか、職員議題に対しても、学生理事からの発言がほぼ毎回出ます。学生委員長や専務いわく、これといって意識していることはなく、歴代の先輩が発言しているのを見て、ごく自然に発言するようになった、とのこと。学生だから発言を躊躇う、ということがほとんどなく、学生理事と教職員理事が対等な立場で理事会に臨んでいる点が素敵です。

POINT.3 専務の想い（議案検討会議より）

10月に行われた「議案検討会議」にて、専務が仰っていた言葉です。――僕らは何のための組織かってところだよね。新学期のパソコンを例に出すと、パソコンをたくさん売ることが目的ではなくて、必要な人に必要なものを届けることが目的。建築系の学部の人はスペックの関係で買わなかったりするし、他にも、違う理由で買わない人はいる。だからこそ、その層についてを知るのは大事。これって、理事会も同じだよね。専務に対してこんなことを言うのは申し訳ないな、ではなくて、むしろ言ってもいいと思うよ。

つながる元気、ときめきキャンパス。
univ. CO-OP
17 パートナーシップで目標を達成しよう
私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

ご質問や[K's NEWS]で紹介したい活動があれば、ご連絡ください！
ブロック学生事務局 [和田 明日香]
Wada.Asuka@univ.coop